

- 1．緑茶等の消費実態について
- 2．食文化の継承について

目 次

平成17年度食料品消費モニター第2回定期調査の概要	1
---------------------------	---

調査結果の概要

テーマ 1．緑茶等の消費実態について

1．知っている緑茶の種類	3
2．緑茶と緑茶飲料、どちらをよく飲むか	3
2-2．飲む理由、飲まない理由	4
3．緑茶を飲む頻度	5
4．普段飲んでいる緑茶の種類	5
5．緑茶を飲むことが多い時間帯	6
6．緑茶の入れ方	6
7．緑茶を飲む理由	6
8．緑茶の味や風味に求めるもの	7
9．緑茶を飲む回数や量の変化	7
9-2．回数や量が増えた、減ったお茶の種類	8
9-3．緑茶を飲む回数や量が増えた理由	9
9-4．緑茶を飲む回数や量が減った理由	9
10．緑茶の購入用途	9
11．緑茶の購入場所	10
12．家庭で飲んでいる緑茶の入手先	10
13．家庭で飲むための緑茶の購入頻度	11
14．家庭で飲むためのお茶の1回あたり購入量	11
15．家庭で飲むためのお茶の1回あたり購入金額	12
16．緑茶を購入する際、こだわること	12
17．緑茶を購入する際、意識する表示	13
18．緑茶の種類に合わせた湯温で入れているか	13
19．使用途中の緑茶の保存方法	14
20．知っている緑茶の成分	14
21．緑茶に関する知識の入手先	14
22．緑茶に関するイベントへの参加意向	15
23．緑茶に関して知りたいこと	15
24．緑茶飲料を飲む理由	16
25．家庭における緑茶飲料の消費量	16
26．緑茶飲料を購入する際、こだわること	17

テーマ 2．食文化の継承について

27．家庭で受け継いだおふくろの味	18
28．今住んでいる地域の郷土料理について	18
28-2．知っている郷土料理	19
28-3．知っている郷土料理を作ることができるか	20
29．季節や行事に応じた料理について	21
30．お箸の持ち方について	22

集計表	23
最近における食料品消費モニター調査テーマ一覧表	74

平成17年度食料品消費モニター第2回定期調査の概要

1. テーマ

- (1) 緑茶等の消費実態について
- (2) 食文化の継承について

2. 調査の目的

- (1) 緑茶等の消費実態について

緑茶は、日本では平安時代から飲まれていると言われる長い伝統のある食品で、一番茶、二番茶などの茶期と茶葉の製法により、上級煎茶、普通煎茶、番茶、ほうじ茶などに分類されます。

最近では、消費者の簡便さや健康への志向、食生活の変化等に伴い、香り、旨味、渋味など緑茶への嗜好性が多様化しており、これらに伴う新たな商品開発などが必要となっています。

さらに、原料原産地表示など消費者の声に対応した表示も求められています。今回の調査は、このような消費動向に対応した今後の国内茶の生産や流通のあり方について検討するため、家庭における緑茶及び緑茶飲料の消費状況を把握するために実施しました。

- (2) 食文化の継承について

農林水産省では、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる力を身に付けるための食育を推進しています。昨年7月には食育基本法が施行されたところであり、今後はさらに政府一体となった取組が求められています。

このような中、食育を推進する基本的施策の一つとして位置付けられている「食文化の継承」について、その実態を把握することを目的として今回の調査を実施しました。

3. 調査の方法等

- (1) 調査時期

平成17年11月

- (2) 調査対象者

食料品消費モニター（全国主要都市に在住する一般消費者）1,021名

- (3) 調査方法

郵送された調査票（質問用紙）にモニターが回答を記入、返送。

- (4) 調査票及び報告書作成担当課

緑茶等の消費実態について（生産局特産振興課）

食文化の継承について（消費・安全局消費者情報官）

- (5) 回収状況

調査票配布者 1,021名

調査票回収者数 999名

調査票回収率 97.8%

- (6) 集計区分

(モニター年代別) 20歳代	87名(8.7%)
30歳代	225名(22.5%)
40歳代	214名(21.4%)
50歳代	215名(21.5%)
60歳代	181名(18.1%)
70歳以上	77名(7.7%)

この他、地域別の集計を行った。

4. 報告書を読む際の注意事項

- (1) 集計表中、構成比(%)は、表章単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。
- (2) 本文中のグラフ及び集計表の構成比(%)欄中の記号は、以下のとおりです。
 - 「-」： 事実のないもの」
 - 「0」： 表章単位に満たないもの」

調査結果の概要

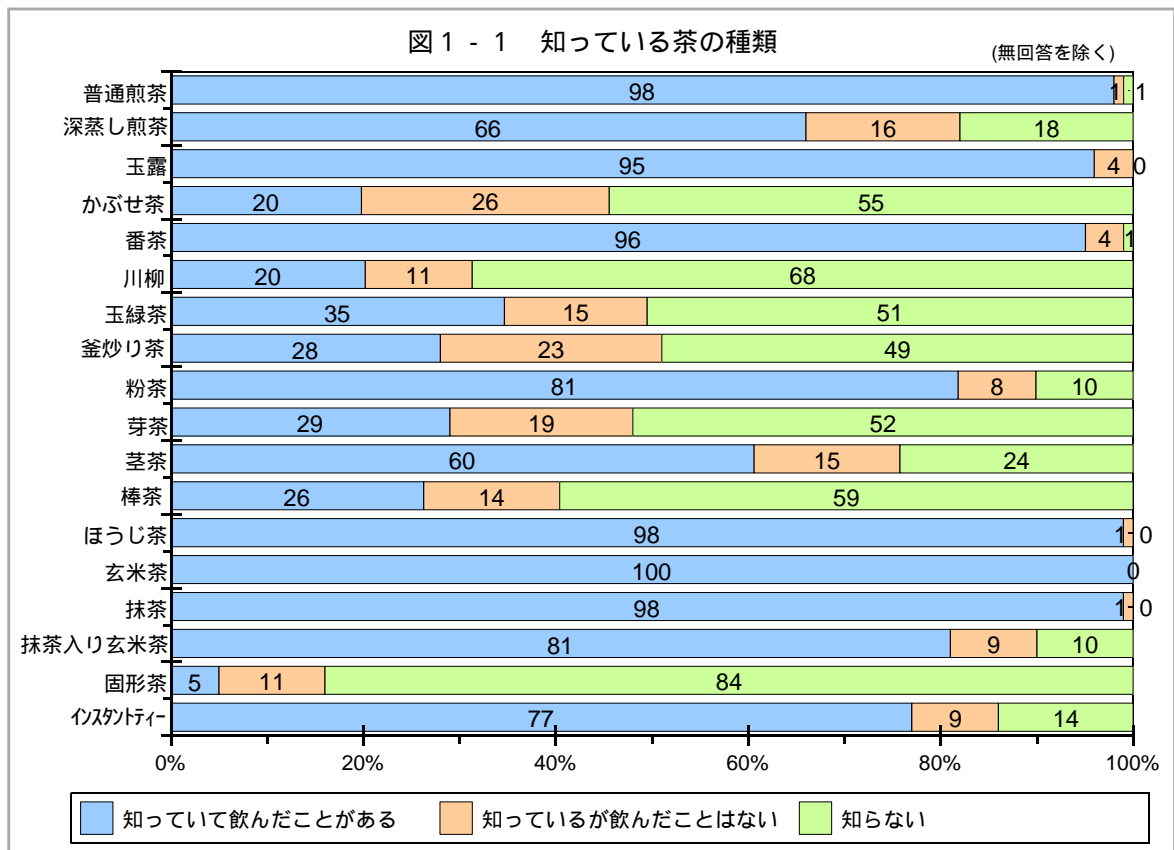
テーマ1．緑茶等の消費実態について

1．知っている緑茶の種類

知られていない緑茶の種類も多い

緑茶にはいろいろな種類があるが、普通煎茶、深蒸し煎茶、玉露、かぶせ茶、番茶、川柳、玉緑、釜炒り茶、粉茶、芽茶、茎茶、棒茶、ほうじ茶、玄米茶、抹茶、抹茶入り玄米茶、固形茶、インスタントティーの18種類について、知っていて飲んだことがあるかどうか聞いたところ、普通煎茶、玉露、番茶、ほうじ茶、玄米茶、抹茶は、9割以上の人々が「知っていて、飲んだことがある」と回答した。

一方、固形茶、川柳、棒茶、かぶせ茶、芽茶、玉緑茶は半数以上の人々が「知らない」と回答した(図1-1)。



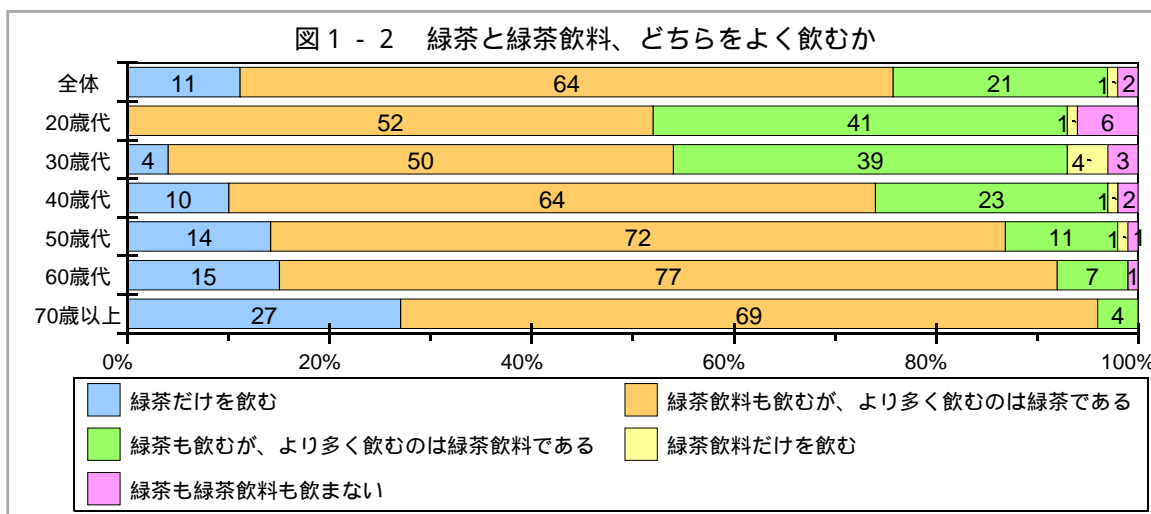
2．緑茶と緑茶飲料、どちらをよく飲むか

年齢の高い世代ほど緑茶を多く飲み、若い世代ほど緑茶飲料をよく飲む傾向が見られた

緑茶と緑茶飲料、どちらをよく飲むか聞いたところ、「緑茶飲料も飲むが、より多く飲むのは緑茶である」と回答した人の割合が最も高く64%であった。

年代別にみると、「緑茶だけを飲む」と回答した人の割合は年齢の高い世代ほど高く、

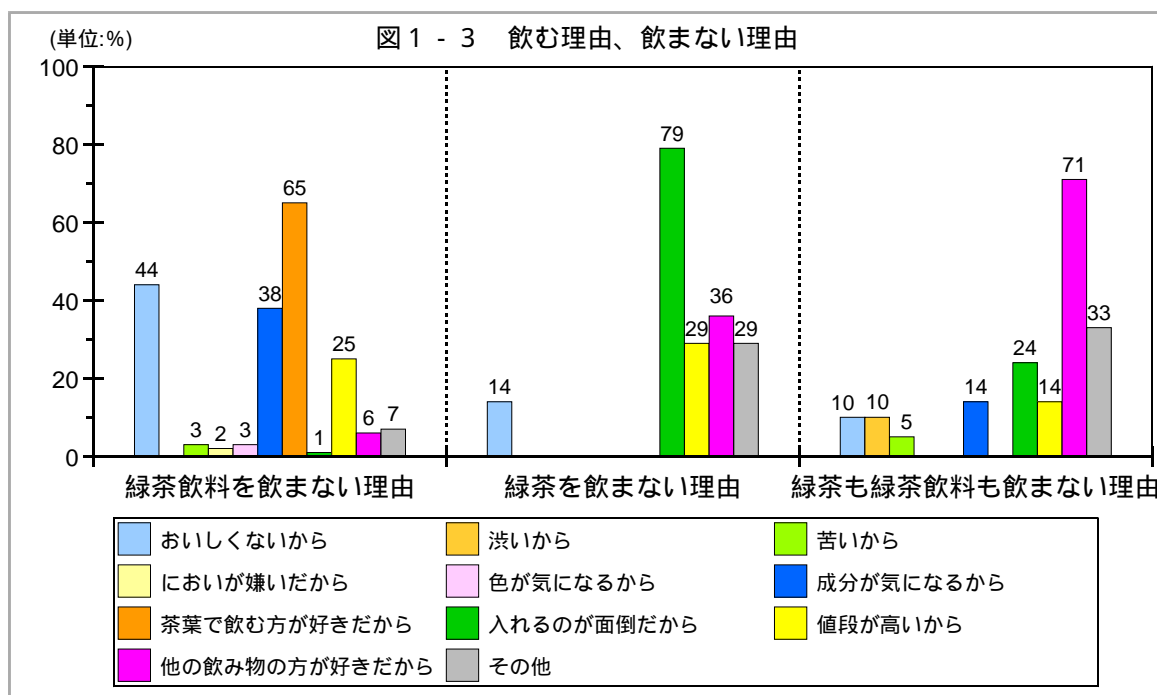
「緑茶も飲むが、より多く飲むのは緑茶飲料である」と回答した人の割合は、年齢の低い世代ほど高い傾向が見られた（図1-2）。



2-2. 飲む理由、飲まない理由

緑茶飲料を飲まない理由は、「茶葉で飲む方が好きだから」が多い

「2. 緑茶と緑茶飲料、どちらをよく飲むか」で、「緑茶だけを飲む」と回答した110人に緑茶飲料を飲まない理由を、「緑茶飲料だけを飲む」と回答した14人に緑茶を飲まない理由を、「緑茶も緑茶飲料も飲まない」と回答した21人にその理由を聞いたところ（いずれも複数回答、2つ以内）、「緑茶だけを飲む」と回答した人は、「茶葉で飲む方が好きだから」を選んだ人の割合が高く65%であった。また、「緑茶飲料だけを飲む」と回答した人は、「入れるのが面倒だから」、「緑茶も緑茶飲料も飲まない」と回答した人は、「他の飲み物の方が好きだから」を選んだ人の割合が高く、それぞれ79%、71%であった（図1-3）。

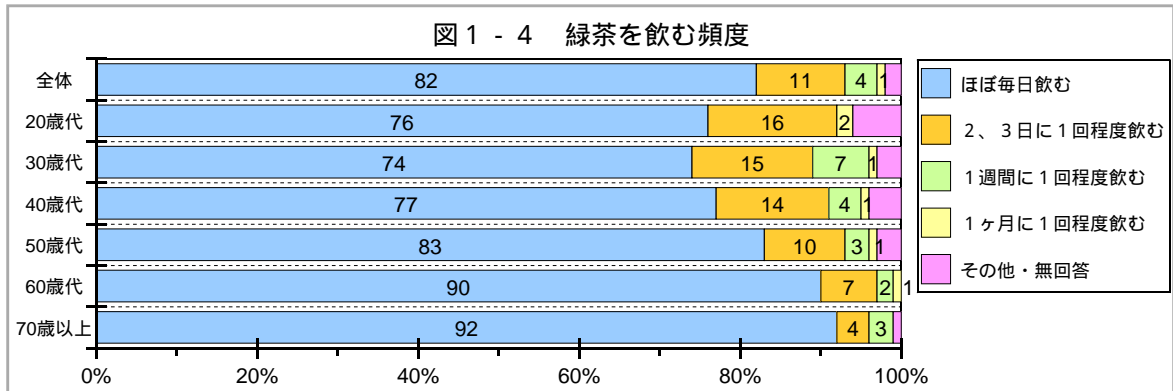


以下「3」～「19」までは、特に断りのない限り「2. 緑茶と緑茶飲料、どちらをよく飲むか」で、「緑茶だけを飲む」、「緑茶飲料も飲むが、より多く飲むのは緑茶である」と回答した753人に対する質問である。

3. 緑茶を飲む頻度

「ほぼ毎日飲む」と回答した人の割合は年代が高いほど高い

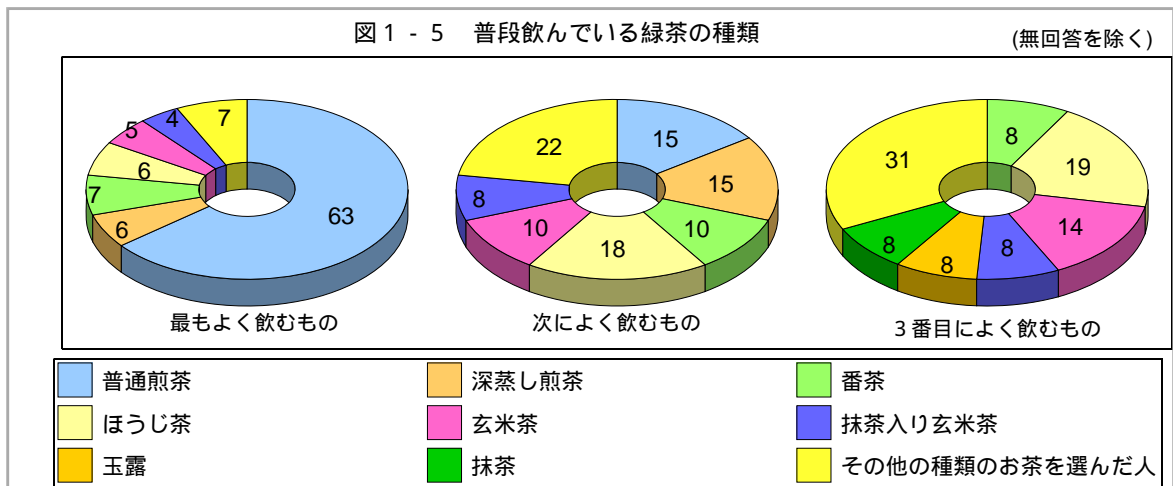
緑茶を飲む頻度について聞いたところ、「ほぼ毎日飲む」と回答した人の割合が最も高く82%であった。「ほぼ毎日飲む」と回答した人の割合は、年代が高くなるほど高かった(図1-4)。



4. 普段飲んでいる緑茶の種類

最もよく飲まれているのは普通煎茶

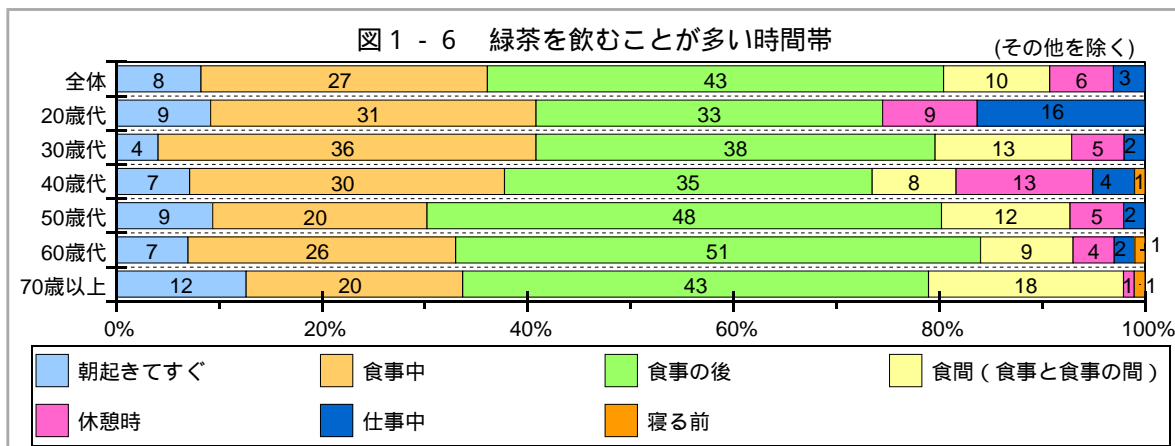
普段飲んでいる緑茶の種類について、最もよく飲むもの、次によく飲むもの、3番目によく飲むものの順番に聞いたところ、最もよく飲んでいるものは「普通煎茶」であると回答した人の割合が高く63%であった。次によく飲んでいるものと3番目によく飲んでいるものは「ほうじ茶」であると回答した人の割合が高く、それぞれ18%、19%であった(図1-5)。



5. 緑茶を飲むことが多い時間帯

緑茶は、「食事後」と「食事中」に飲むことが多いと回答した人の割合が高い

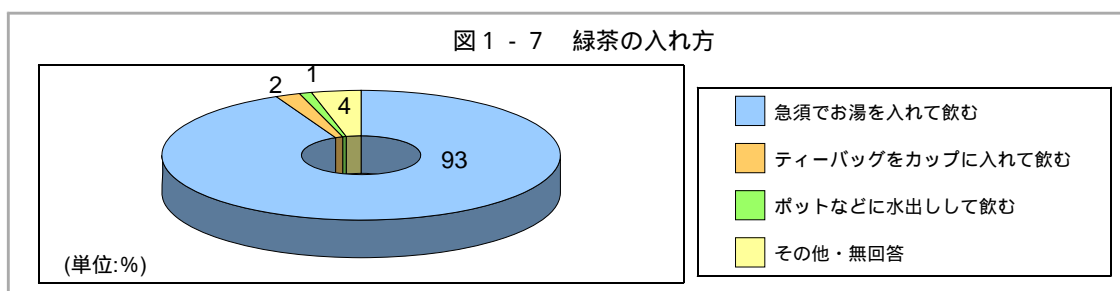
1日の中でどのような時に緑茶を飲むことが多いか聞いたところ、「食事の後」、「食事中」と回答した人の割合が高く、それぞれ43%、27%であった。(図1-6)。



6. 緑茶の入れ方

ほとんどの人が「急須でお湯を入れて」飲んでいる

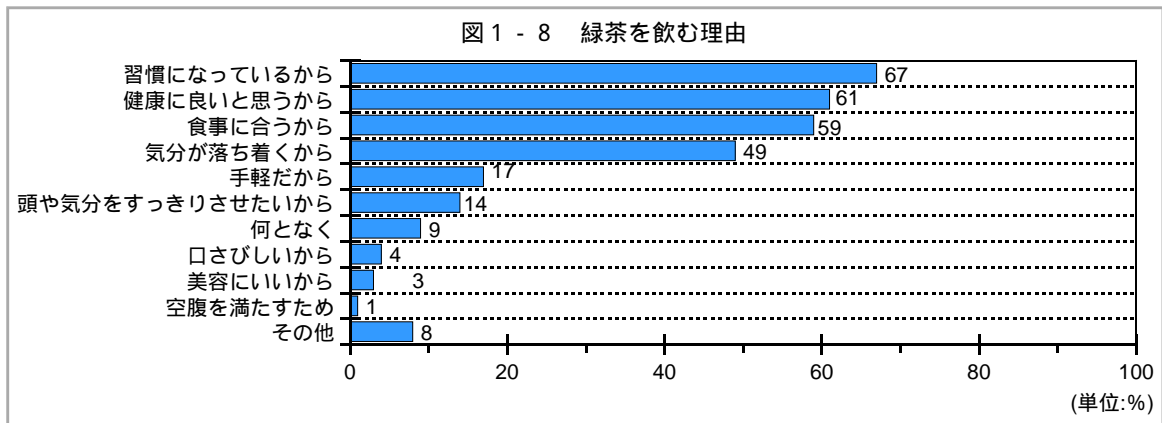
緑茶をどのような方法で入れて飲んでいるか聞いたところ、「急須でお湯を入れて飲む」と回答した人の割合が高く93%であった(図1-7)。



7. 緑茶を飲む理由

「習慣になっているから」、「健康に良いと思うから」、「食事に合うから」、「気分が落ち着くから」と回答した人の割合が高い

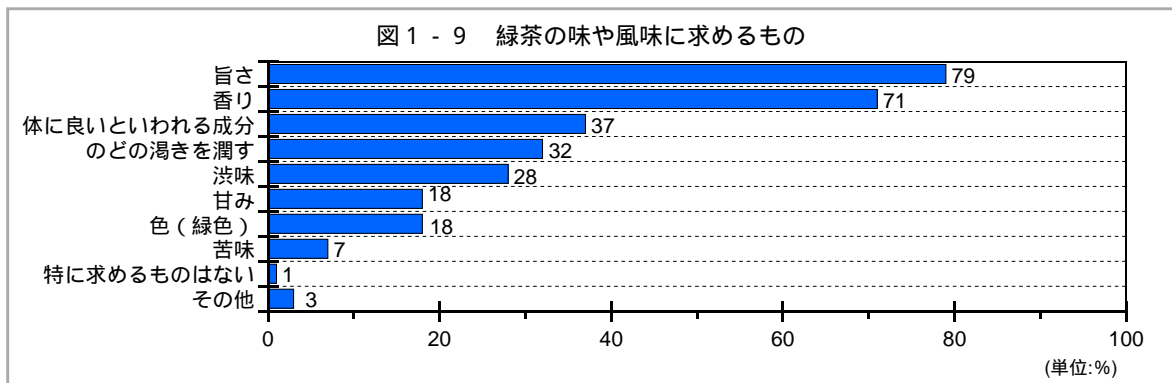
緑茶を飲む理由について聞いたところ(複数回答、3つ以内)、「習慣になっているから」、「健康に良いと思うから」、「食事に合うから」、「気分が落ち着くから」と回答した人の割合が高く、それぞれ67%、61%、59%、49%であった(図1-8)。



8. 緑茶の味や風味に求めるもの

緑茶には、「旨さ」や「香り」を求めている人が多い

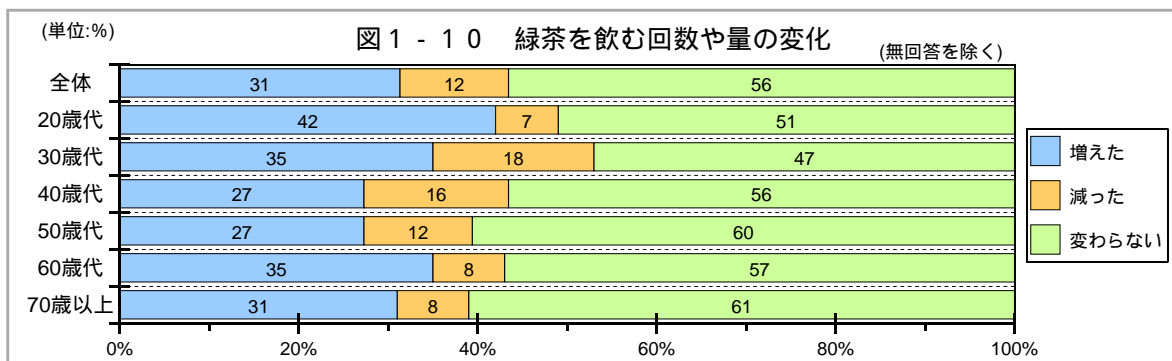
緑茶の味や風味に何を求めるか聞いたところ（複数回答、3つ以内）、「旨さ」と「香り」と回答した人の割合が高く、それぞれ79%、71%であった（図1-9）。



9. 緑茶を飲む回数や量の変化

近年、緑茶を飲む回数や量は、「変わらない」と回答した人の割合が56%

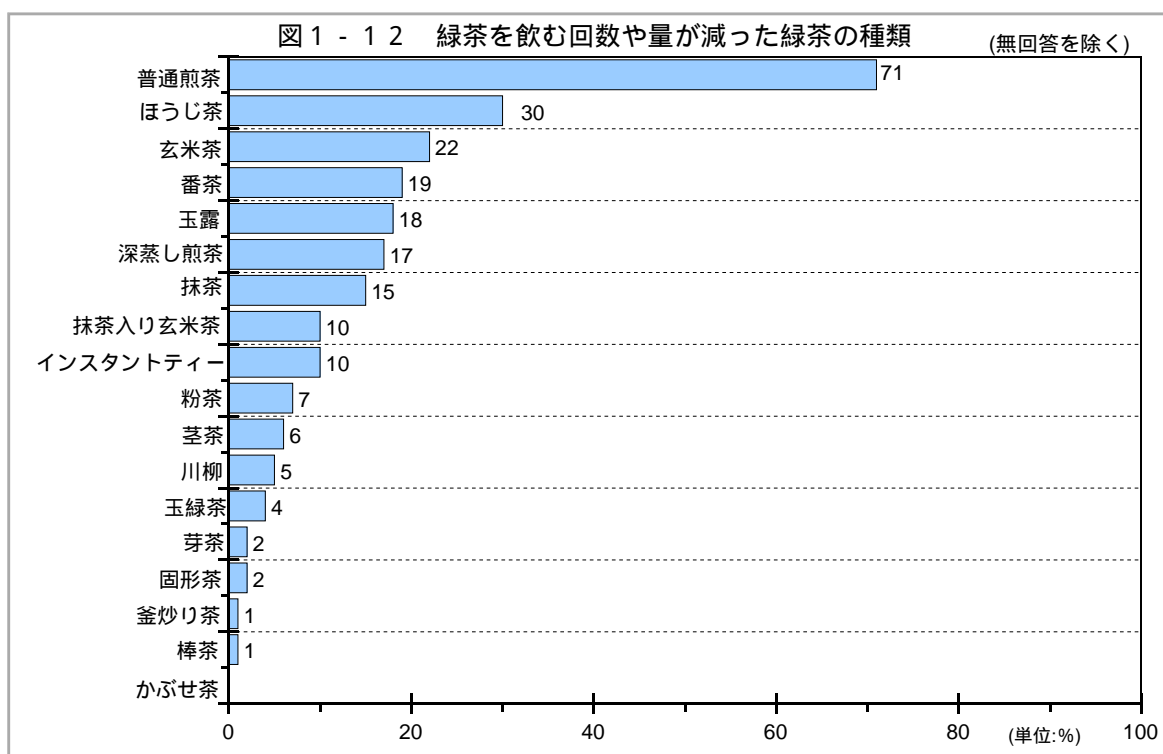
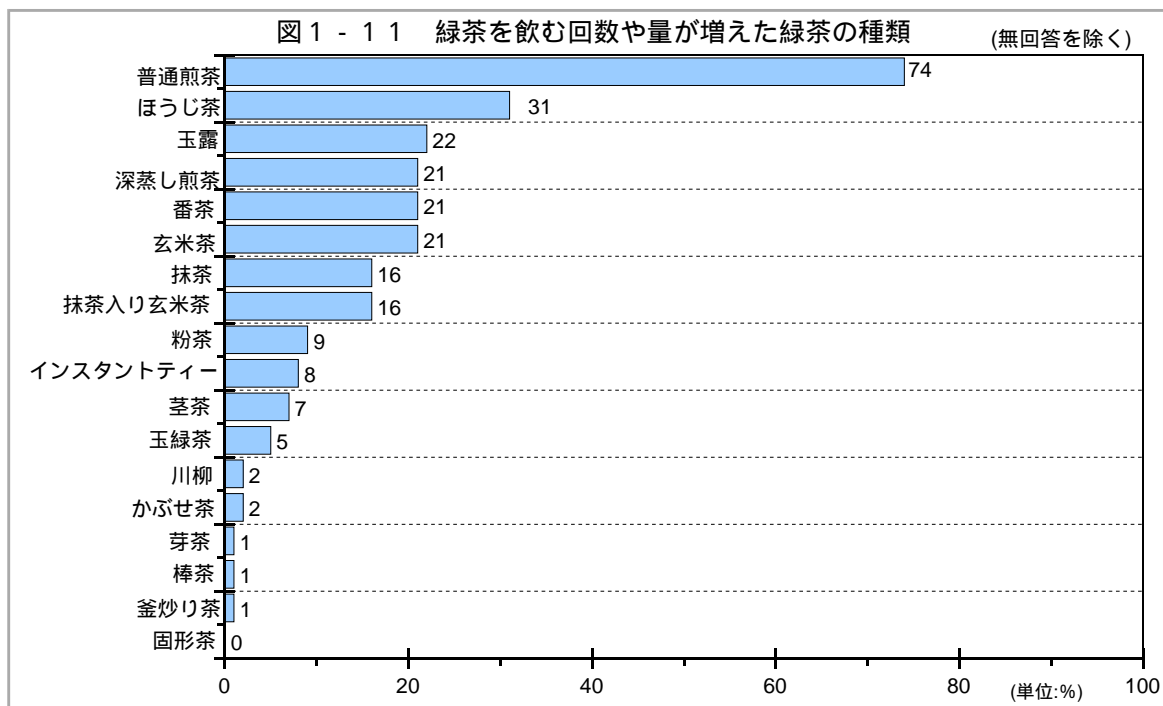
緑茶を飲む回数や量に近年変化はあったか聞いたところ、「変わらない」と回答した人の割合が最も高く56%、「増えた」31%、「減った」12%であった（図1-10）。



9 - 2 . 回数や量が増えた、減ったお茶の種類

飲む回数や量が増えたのも、減ったのも「普通煎茶」として回答した人の割合が高かった

「9. 緑茶を飲む回数や量の変化」で「増えた」と回答した237人、「減った」と回答した94人に飲む回数や量が「増えた」又は「減った」緑茶の種類は何か聞いたところ（それぞれ複数回答、3つ以内）、「増えた」、「減った」双方とも「普通煎茶」として回答した人の割合が高く、それぞれ74%、71%であった（図1-11、図1-12）。

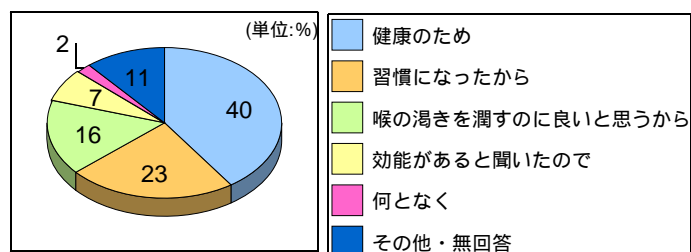


9 - 3 . 緑茶を飲む回数や量が増えた理由

緑茶を飲む回数や量が増えたのは、「健康のため」と回答した人の割合が40%

「9. 緑茶を飲む回数や量の変化」で「増えた」と回答した237人に飲む回数や量が増えた理由について聞いたところ、「健康のため」と回答した人の割合が高く40%であった(図1-13)。

図1-13 緑茶を飲む回数や量が増えた理由

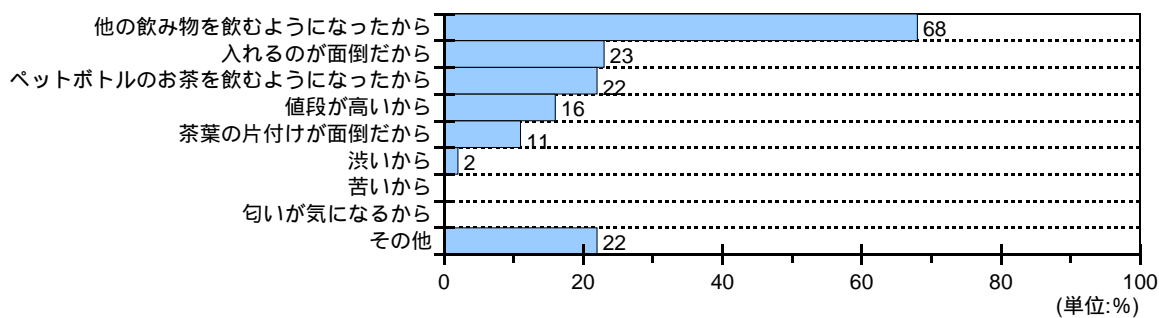


9 - 4 . 緑茶を飲む回数や量が減った理由

緑茶を飲む回数や量が減ったのは、「他の飲み物を飲むようになったから」と回答した人の割合が68%

「9. 緑茶を飲む回数や量の変化」で「減った」と回答した94人に飲む回数や量が減った理由について聞いたところ(複数回答、2つ以内)「他の飲み物を飲むようになったから」と回答した人の割合が最も高く68%であった(図1-14)。

図1-14 緑茶を飲む回数や量が減った理由

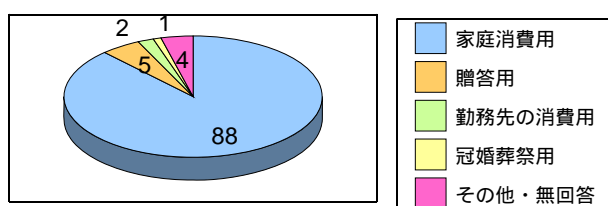


10 . 緑茶の購入用途

「家庭消費用」として購入する人の割合が高く88%

緑茶をどのような用途のために購入することが多いか聞いたところ、「家庭消費用」と回答した人の割合が最も高く88%であった(図1-15)。

図1-15 緑茶の購入用途

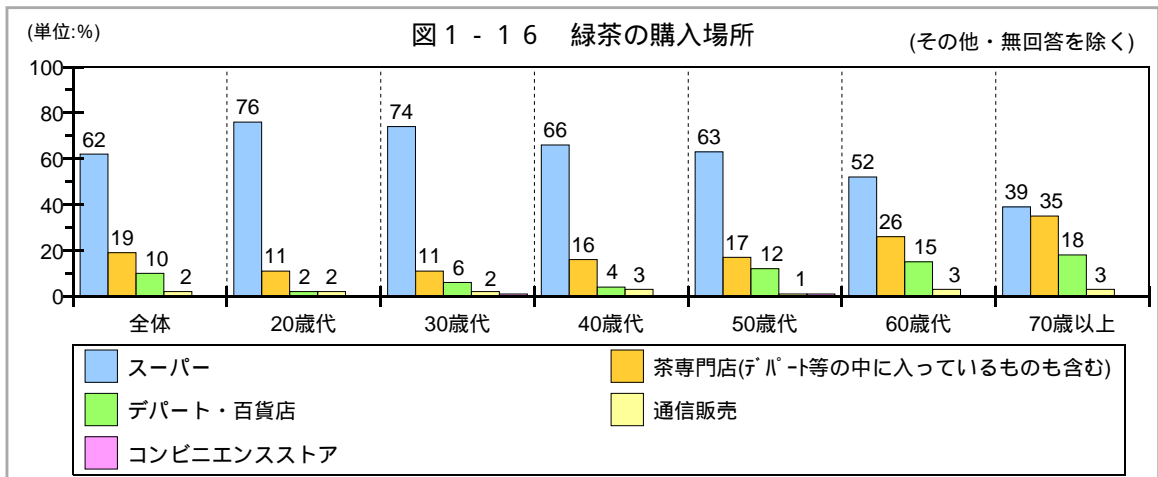


1.1. 緑茶の購入場所

スーパーと回答した人の割合が高かったが、70歳以上では、他の年代と比べ、茶専門店、デパート・百貨店の割合が高い

「10. 緑茶の購入用途」で回答したような場合の緑茶は、どこで購入することが多いか聞いたところ（複数回答、2つ以内）、「スーパー」62%、「茶専門店」19%、「デパート・百貨店」10%であった。

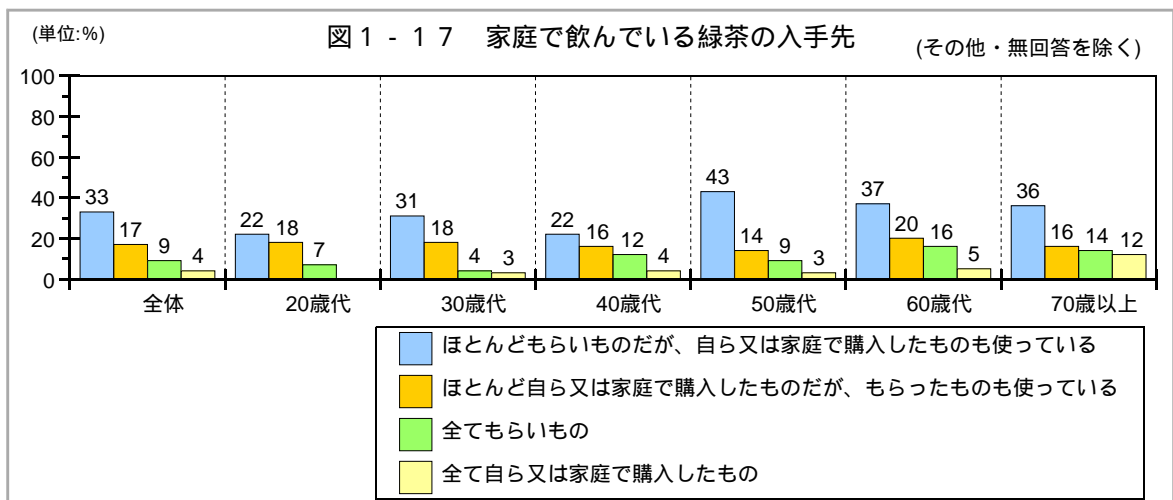
「スーパー」と回答した人の割合は、若い年代ほど高く、「茶専門店」、「デパート・百貨店」と回答した人の割合は、高い年代ほど高い傾向が見られた（図1-16）。



1.2. 家庭で飲んでいる緑茶の入手先

家庭で飲んでいる緑茶は、「ほとんどもらいものだが、自ら又は家庭で購入したのもも使っている」と回答した人の割合が高い

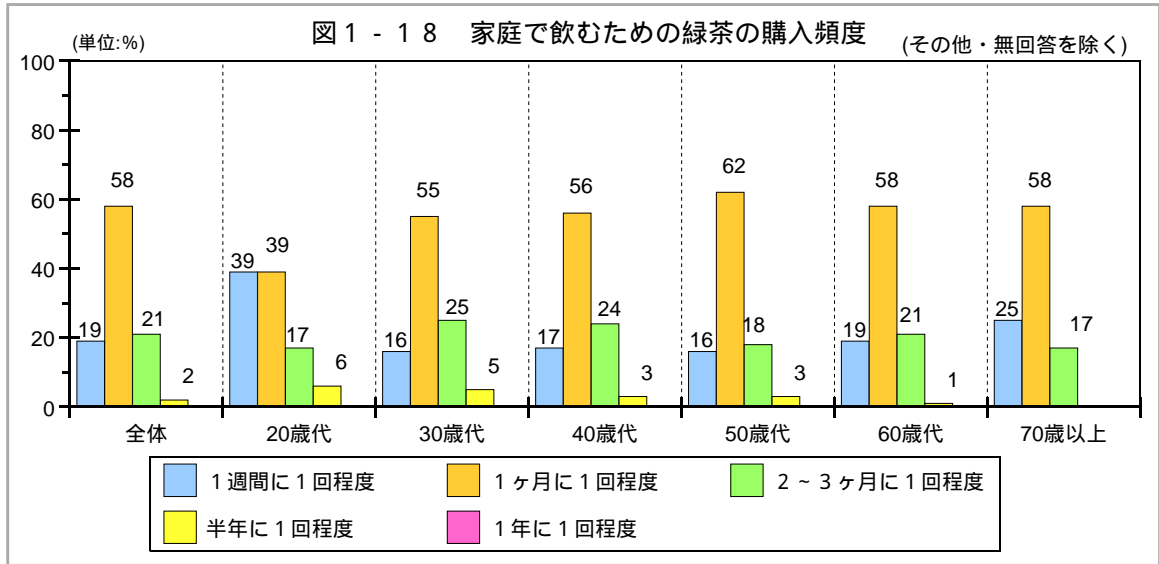
家で飲んでいる緑茶はどのようにして入手したものが聞いたところ、「ほとんどもらいものだが、自ら又は家庭で購入したのもも使っている」33%、「ほとんど自ら又は家庭で購入したのもも使っている」17%であった（図1-17）。



13. 家庭で飲むための緑茶の購入頻度

購入頻度は、1ヵ月に1回程度が一番多い

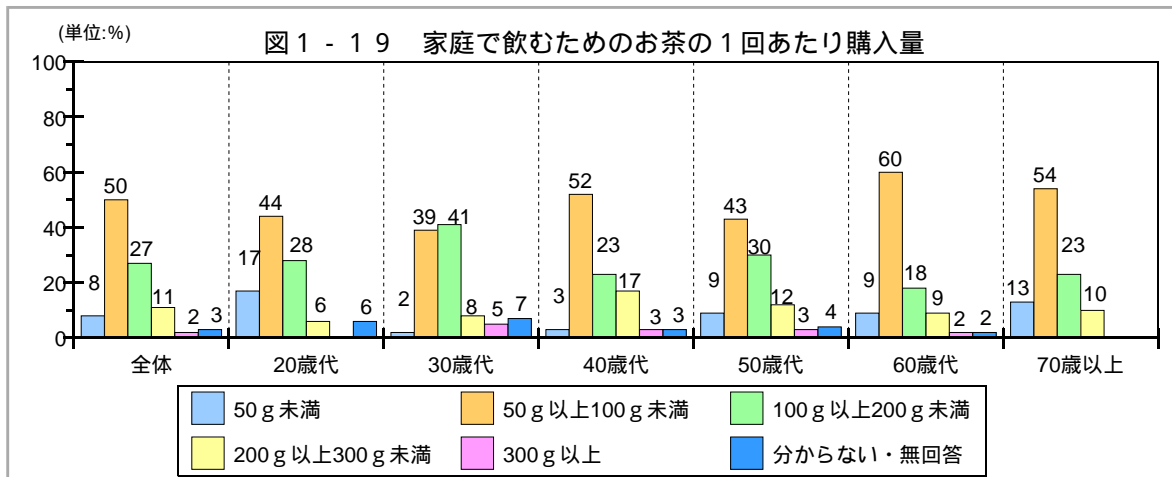
家庭で飲むための緑茶をどのくらいの頻度で購入しているか聞いたところ、「1ヵ月に1回程度」と回答した人の割合が最も高く58%、「2～3ヶ月に1回程度」21%、「1週間に1回程度」19%であった(図1-18)。



14. 家庭で飲むための緑茶の1回あたり購入量

1回あたり購入量は、「50g以上100g未満」の比率が一番高い

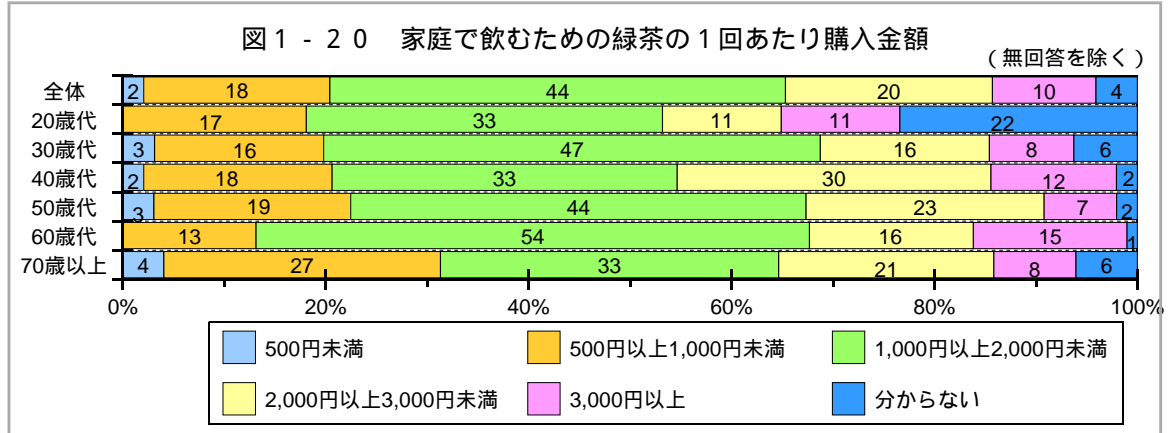
「13. 家庭で飲むための緑茶の購入頻度」で回答したような購入頻度の場合、1回にどのくらいの量を購入しているか聞いたところ、「50g以上100g未満」と回答した人の割合が最も高く50%、「100g以上200g未満」27%、「200g以上300g未満」11%であった。(図1-19)。



15. 家庭で飲むためのお茶の1回あたり購入金額

1回あたり購入金額は、2000円未満が約6割を占める

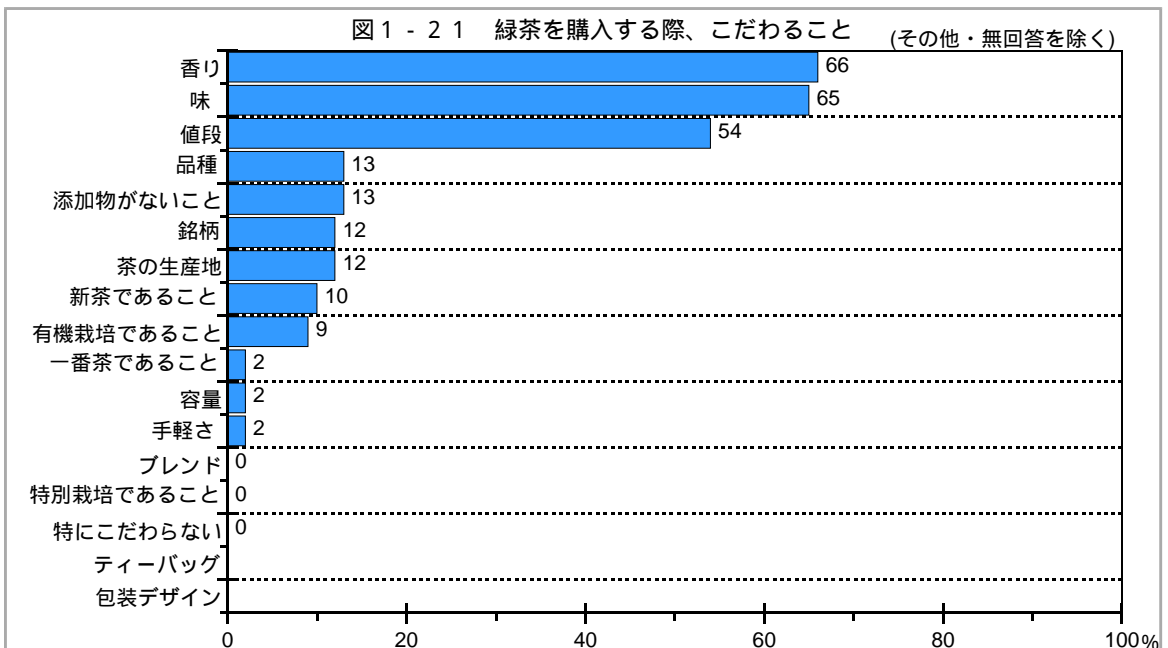
「14. 家庭で飲むための緑茶の1回あたり購入量」で回答したような購入量の場合、どのくらいの金額（100g当たり単価。消費税込。）のものを購入しているか聞いたところ、「1,000円以上2,000円未満」と回答した人の割合が最も高く44%、「2,000円以上3,000円未満」20%、「500円以上1,000円未満」18%であった（図1-20）。



16. 緑茶を購入する際、こだわること

こだわるポイントは、「香り」、「味」、「値段」が上位回答

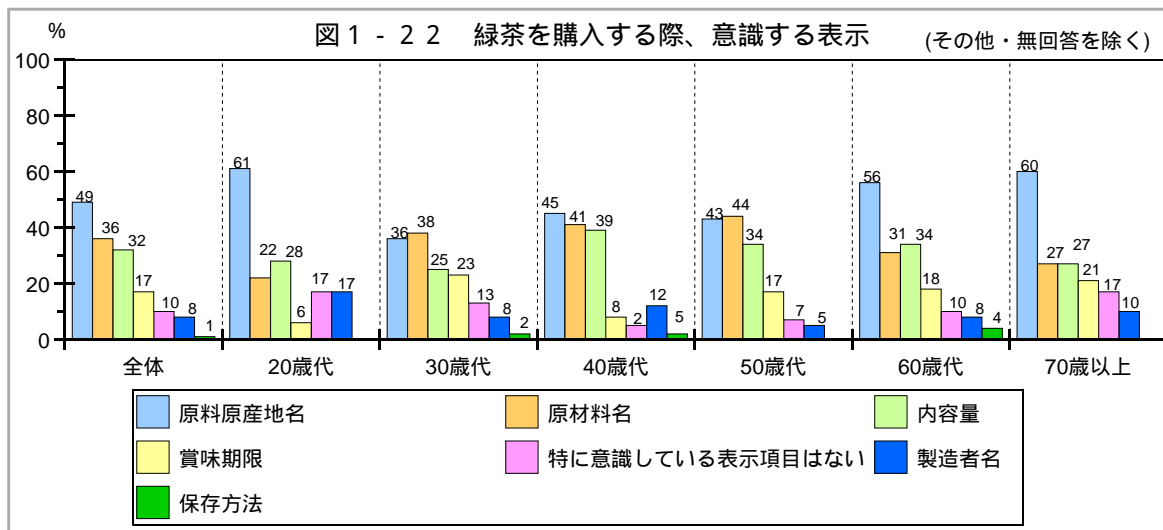
緑茶を購入する際どのようなことにこだわるか聞いたところ（複数回答、3つ以内）、「香り」、「味」、「値段」を選んだ人の割合が高く、それぞれ66%、65%、54%であった（図1-21）。



17. 緑茶を購入する際、意識する表示

意識する表示は、「原料原産地名」、「原材料名」、「内容量」が上位回答

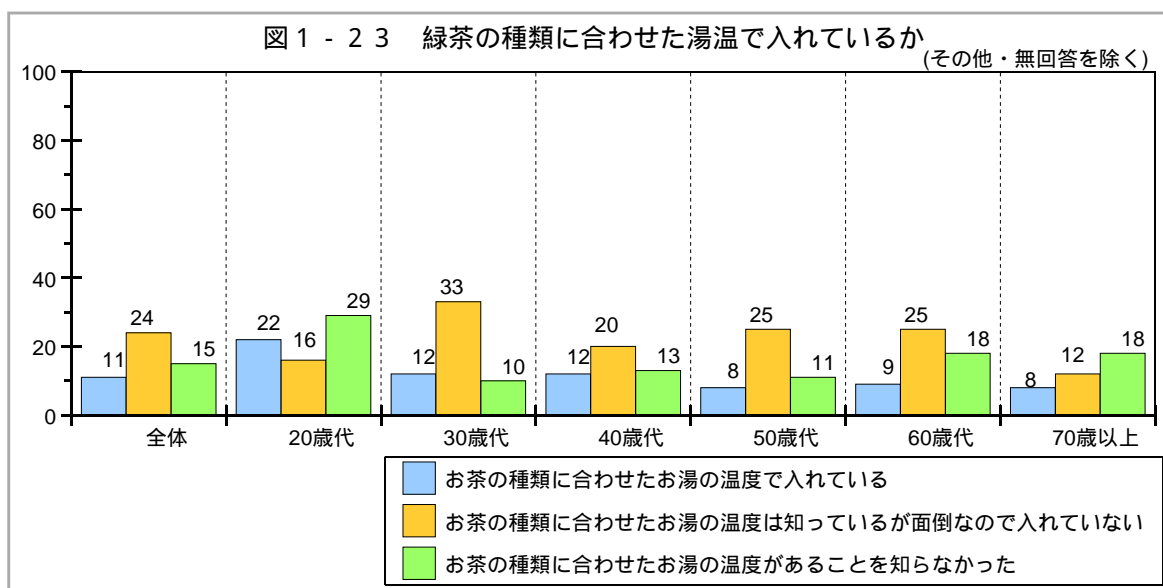
緑茶を購入する際、どのような表示を意識しているか聞いたところ（複数回答、2つ以内）、「原料原産地名」、「原材料名」、「内容量」が上位回答で、それぞれ49%、36%、32%であった（図1-22）。



18. 緑茶の種類に合わせた湯温で入れているか

お茶の種類に合わせたお湯の温度で緑茶を入れていると回答した人の割合は11%

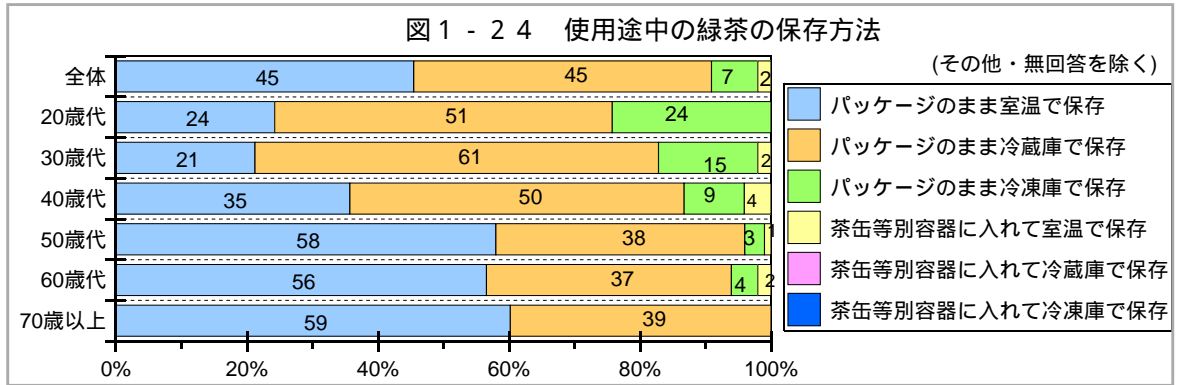
緑茶を入れるときお茶の種類に合わせたお湯の温度（煎茶は80度位、かぶせ茶は70度位、玉露は50度位）で入れているか聞いたところ、「お茶の種類に合わせたお湯の温度で入れている」と回答した人の割合は11%であった（図1-23）。



19. 使用途中の緑茶の保存方法

使用途中の緑茶は、パッケージのまま「室温」か「冷蔵庫」で保存していると回答した人の割合が高い

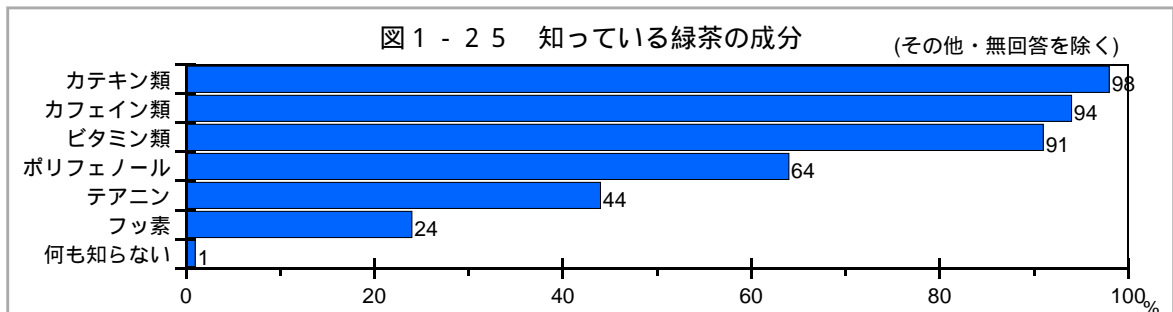
使っている途中の緑茶をどのようにして保存しているか聞いたところ、「パッケージのまま室温で保存」、「パッケージのまま冷蔵庫で保存」と回答した人の割合がそれぞれ45%であった(図1-24)。



20. 知っている緑茶の成分

カテキン類、カフェイン類、ビタミン類は、9割以上の人が知っている

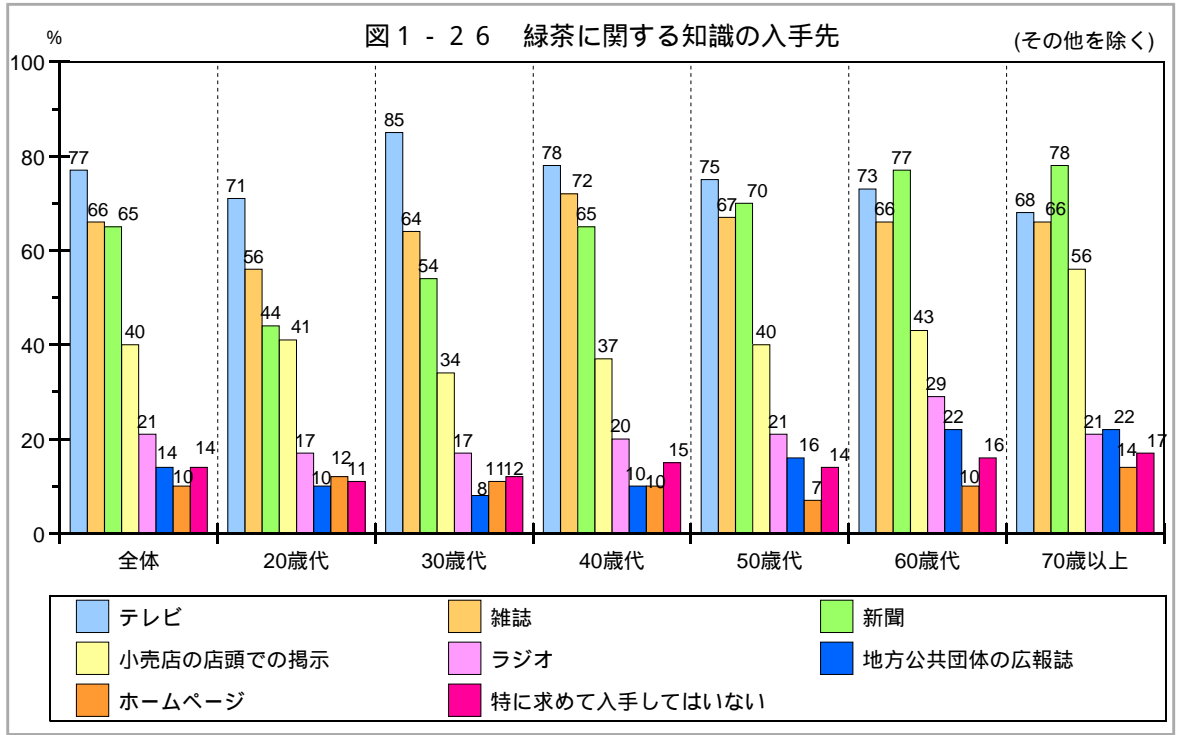
緑茶の成分にはどのようなものがあるか知っているか聞いたところ(複数回答、知っているものを全て選択)、「カテキン類」、「カフェイン類」、「ビタミン類」と回答した人の割合が高く、それぞれ98%、94%、91%であった(図1-25)。



21. 緑茶に関する知識の入手先

テレビ、雑誌、新聞が多い

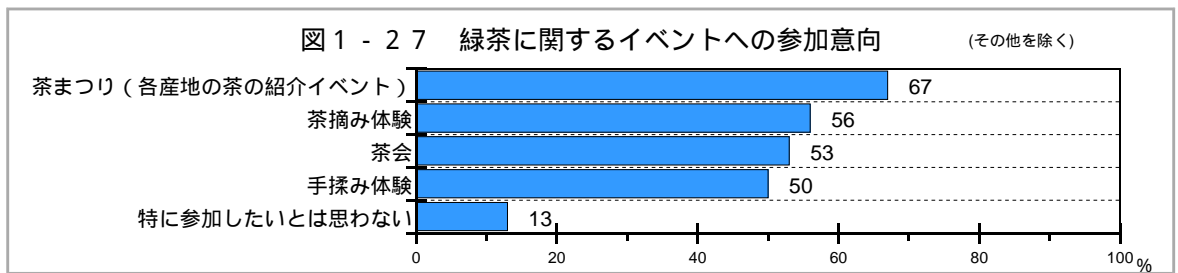
緑茶に関する知識は、どのような方法で入手したものか聞いたところ(複数回答、該当事項を全て選択)、「テレビ」77%、「雑誌」66%、「新聞」65%、「小売店の店頭での掲示」40%、「ラジオ」21%、「地方公共団体の広報誌」及び「特に求めて入手していない」がそれぞれ14%、「ホームページ」10%であった(図1-26)。



2.2. 緑茶に関するイベントへの参加意向

例示したどのイベントも、参加してみたいとの意向は50%以上あった

参加してみたいと思う緑茶に関するイベントについて聞いたところ（複数回答、該当事項を全て選択）、「茶まつり（各産地の茶の紹介イベント）」67%、「茶摘み体験」56%、「茶会」53%、「手揉み体験」50%、「特に参加したいとは思わない」13%であった。（図1-27）。

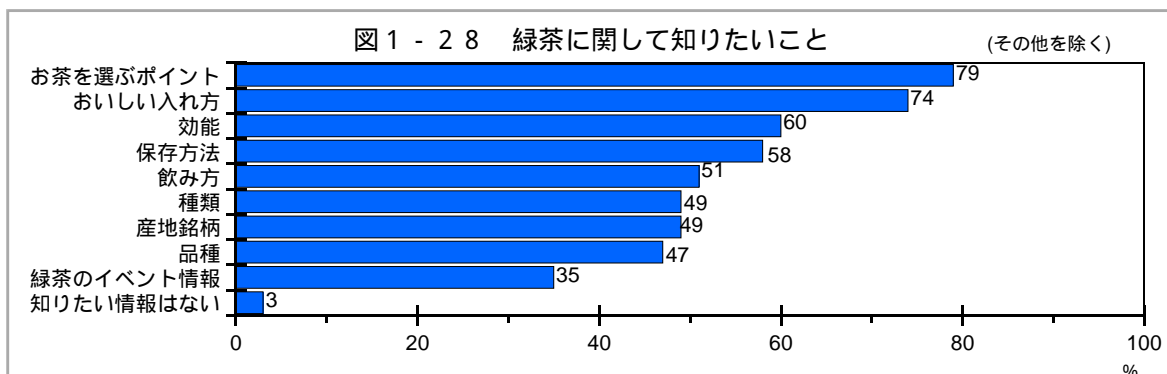


2.3. 緑茶に関して知りたいこと

「お茶を選ぶポイント」、「おいしい入れ方」、「効能」、「保存方法」、「飲み方」と回答した人の割合が高かった

緑茶に関してどのようなことを知りたいか聞いたところ（複数回答、該当事項を全て選択）、「お茶を選ぶポイント」、「おいしい入れ方」、「効能」、「保存方法」と回答した

人の割合が50%を超えており、それぞれ、79%、74%、60%、58%、51%、49%、47%、35%、3%であった。(図1-28)。

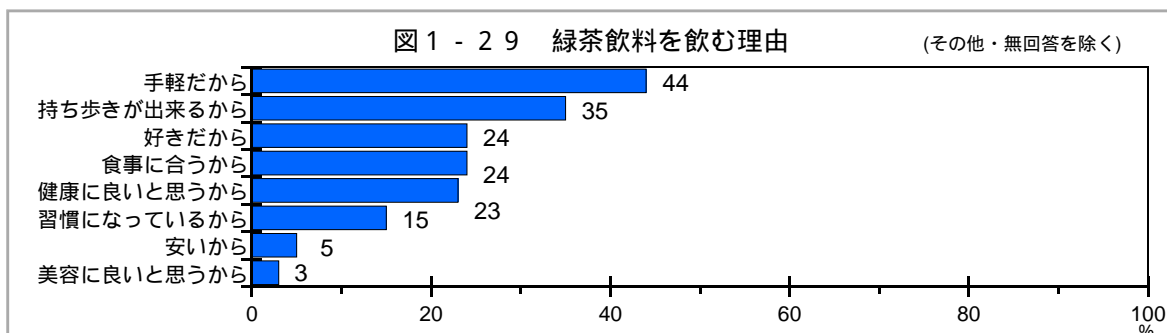


以下「24」～「26」までは、特に断りのない限り「2. 緑茶と緑茶飲料、どちらをよく飲むか」で、「緑茶も飲むが、より多く飲むのは緑茶飲料である」、「緑茶飲料だけを飲む」と回答した225人に対する質問である。

2.4. 緑茶飲料を飲む理由

緑茶飲料を飲むのは、「手軽だから」、「持ち歩きができるから」と回答した人の割合が多かった

緑茶飲料を飲むのはなぜか聞いたところ(複数回答、2つ以内)、「手軽だから」、「持ち歩きができるから」と回答した人の割合が高く、それぞれ、44%、35%であった(図1-29)。

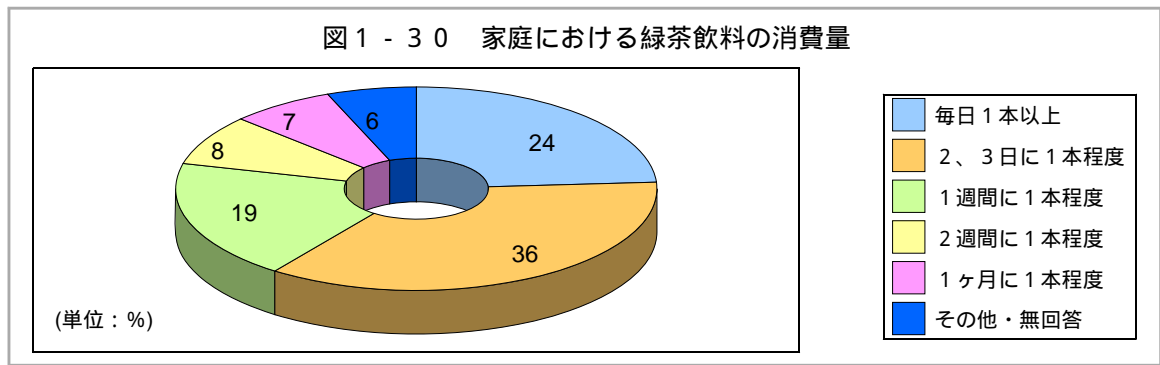


2.5. 家庭における緑茶飲料の消費量

家庭における緑茶飲料の消費量は、「2、3日に1本程度」と回答した人の割合が多く36%

家庭で、家族1人当たりどのくらいの量の緑茶飲料(500ml/本)を飲んでいるか聞いたところ、「2、3日に1本程度」と回答した人の割合が多く36%、「毎日1本以上」が

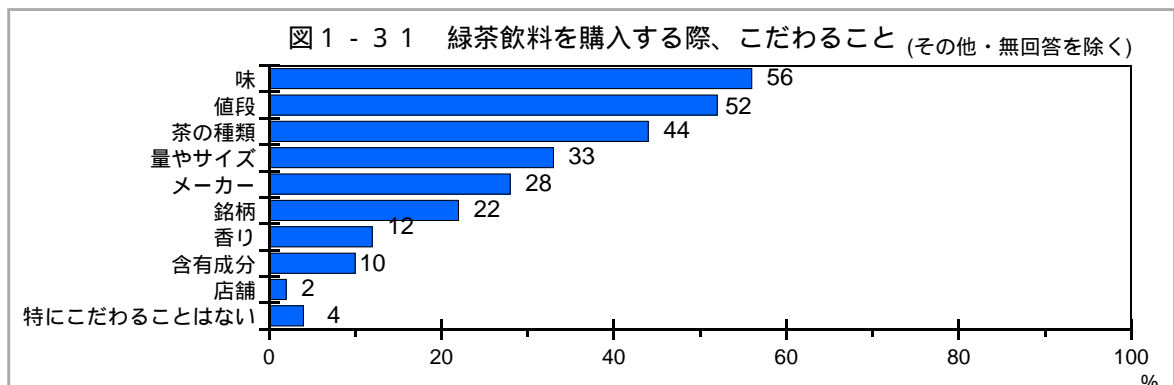
24%であった(図1-30)。



2.6. 緑茶飲料を購入する際、こだわること

緑茶飲料を購入する際は、「味」、「値段」にこだわるという回答した人の割合が多く、それぞれ50%を超えた

緑茶飲料を購入する際どんなことにこだわるか聞いたところ(複数回答、3つ以内)、「味」、「値段」にこだわるという回答した人の割合が多く、それぞれ56%、52%であった(図1-31)。



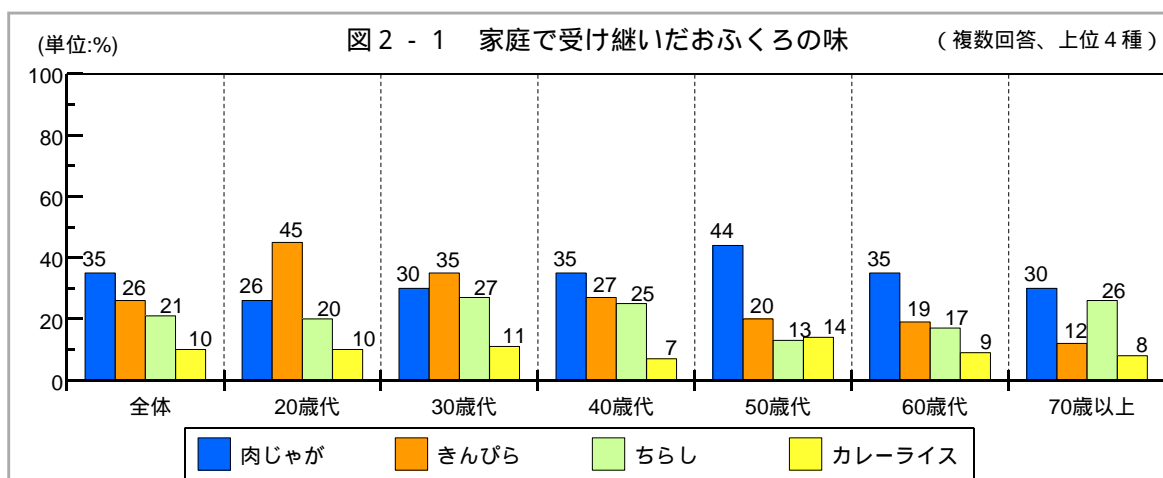
テーマ2 . 食文化の継承について

27 . 家庭で受け継いだおふくろの味

家庭で最も受け継がれているおふくろの味は「肉じゃが」

家庭で受け継いだおふくろの味は何か聞いたところ（複数回答、3つ以内）、「肉じゃが」と回答した人の割合が35%と最も多かった。次いで「きんぴら」26%、「ちらし」21%、「カレーライス」10%であった。

年代別にみると、40歳代以上では「肉じゃが」、20歳代、30歳代では「きんぴら」と回答した人の割合が最も多かった（図2-1）。



28 . 今住んでいる地域の郷土料理について

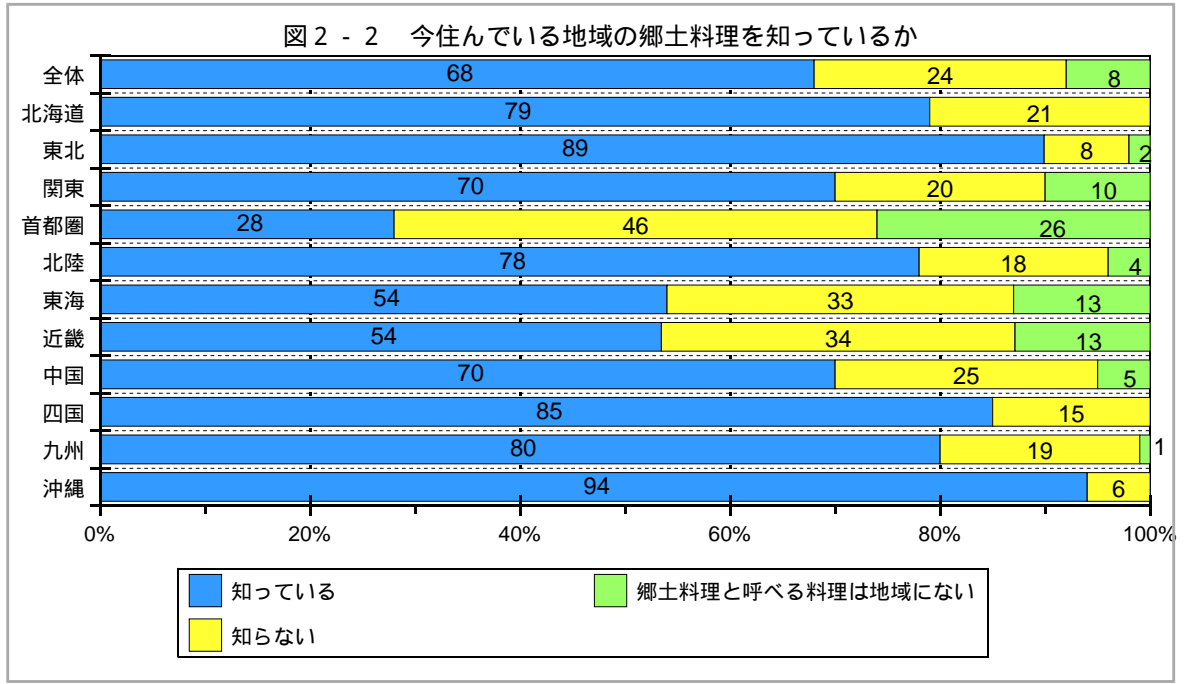
自分が今住んでいる地域の郷土料理を「知っている」と回答した人の割合は68%であった。

地域別に見ると「知っている」と回答した人の割合は沖縄、東北が多く、首都圏、東海、近畿が少なかった。

自分が今住んでいる地域（都道府県単位まで含む）の郷土料理を知っているか聞いたところ、「知っている」と回答した人の割合は68%、「知らない」24%、「郷土料理と呼べる料理は地域にない」8%であった。

地域別に見ると、「知っている」と回答した人の割合が最も多かったのは、沖縄で94%、次いで東北89%であった。反対に「知っている」と回答した人の割合が最も少なかったのは、首都圏で28%、次に東海と近畿でそれぞれ54%であった。

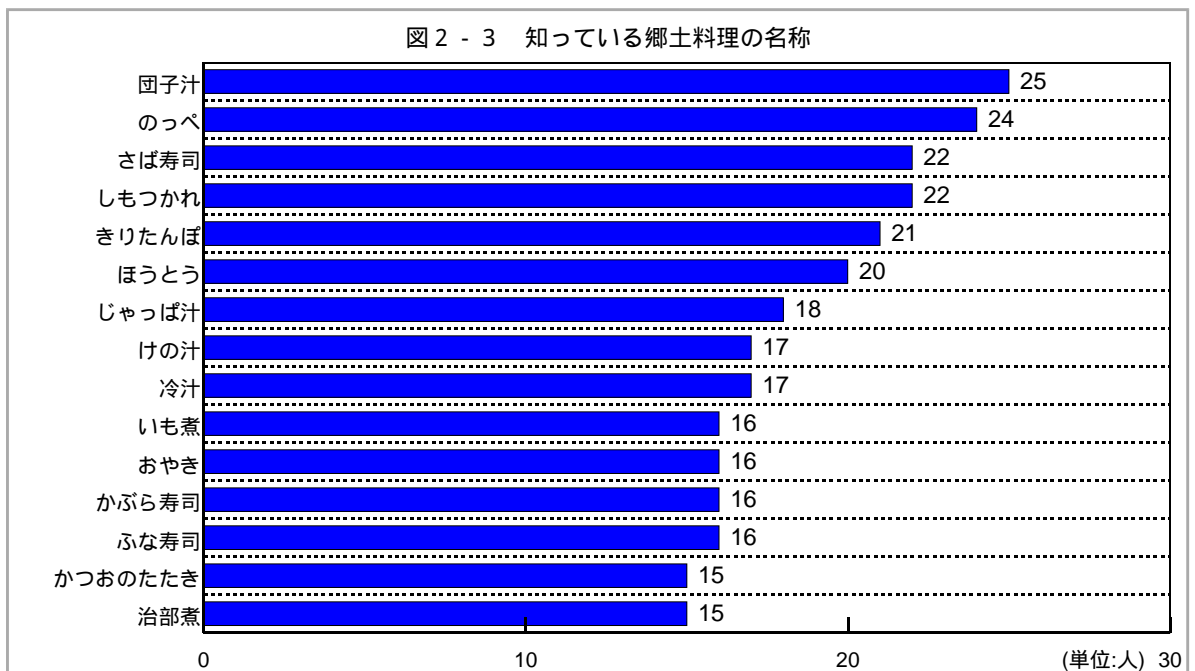
また、「郷土料理と呼べる料理は地域にない」と答えた人が最も多かったのは首都圏で、26%であった（図2-2）。



2 8 - 2 . 知っている郷土料理

回答者が 20 人を超えたのは「団子汁」、「のっぺ」、「さば寿司」、「しもつかれ」、「きりたんぼ」、「ほうとう」

問 2 8 「今住んでいる地域の郷土料理について」で「知っている」と回答した 6 8 2 人に知っている郷土料理名を具体的に記入してもらったところ（複数回答、3つ以内）、1, 6 2 0 の料理名の記入があった。この中で回答人数が 20 人を超えたのは「団子汁」、「のっぺ」、「さば寿司」、「しもつかれ」、「きりたんぼ」、「ほうとう」であった（図 2 - 3）。



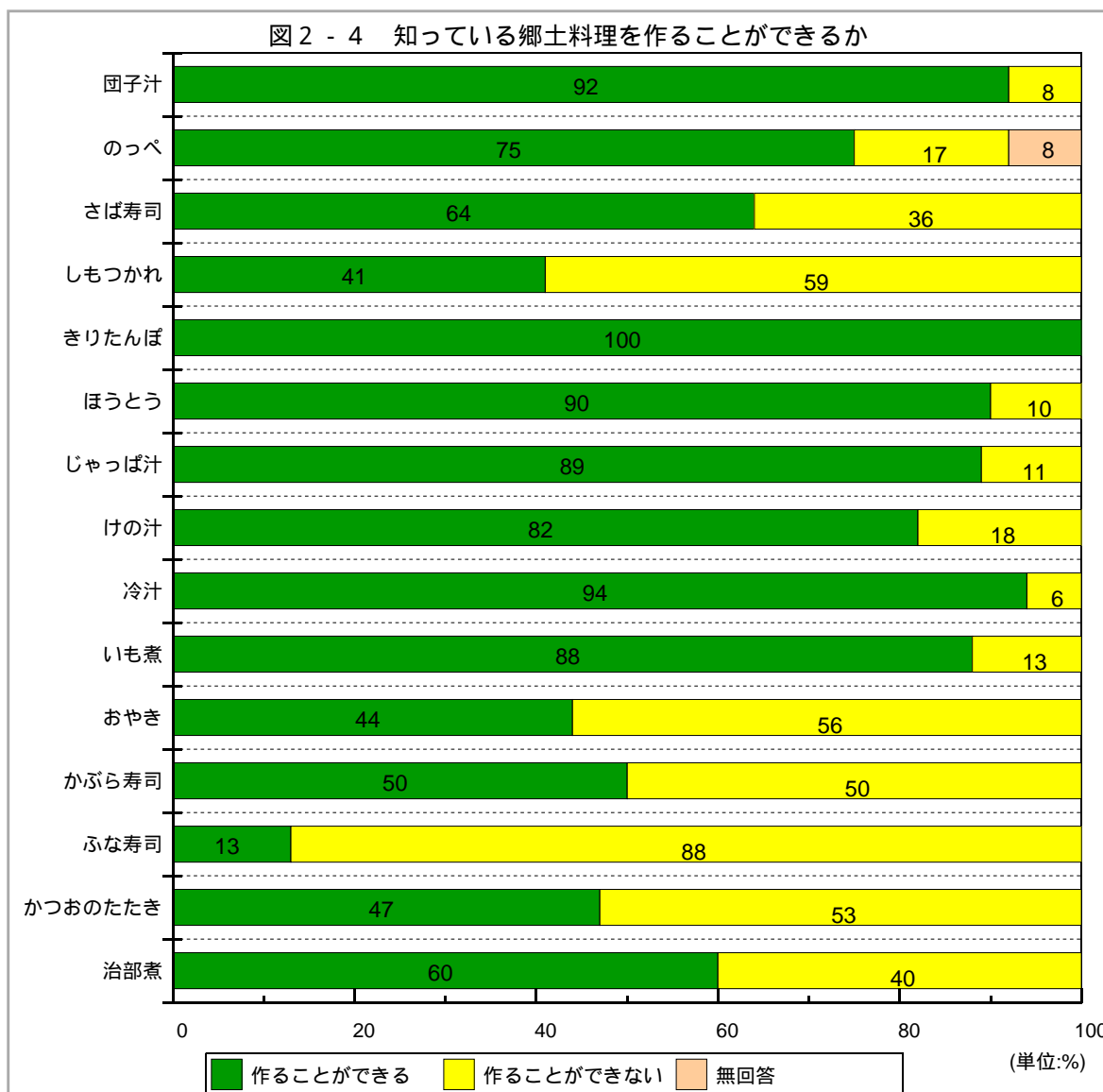
この設問では、様々な料理名の記入があったため、記入された料理名を同一と思われるものごとに区分し、集計表では回答数が2桁台だったものについて料理名をあげ、その他のものは「その他」としてまとめた。

28-3. 知っている郷土料理を作ることができるか

自分の知っている郷土料理を作ることができる人の割合は70%

問28-2「知っている郷土料理」で具体的な料理名を記入した人に、その料理を作ることができるか記入した料理ごとに聞いたところ、「作ることができる」70%、「作ることができない」29%であった。

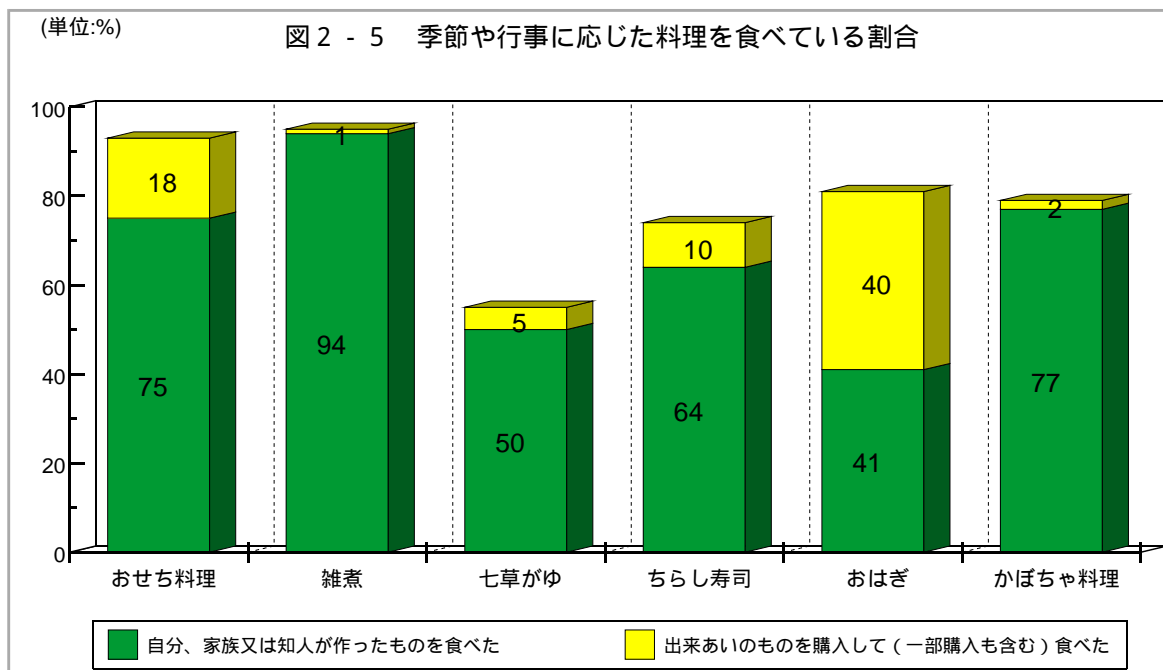
図2-3の料理についてしてみると、「きりたんぼ」は全員が作ることができると回答しているほか、「冷汁」、「団子汁」「ほうとう」などの汁物は作ることができると回答する人の割合が高く、「ふな寿司」や「しもつかれ」など作るのに手間や時間のかかる料理は作ることができないと回答した人の割合が高い傾向が見られた(図2-4)。



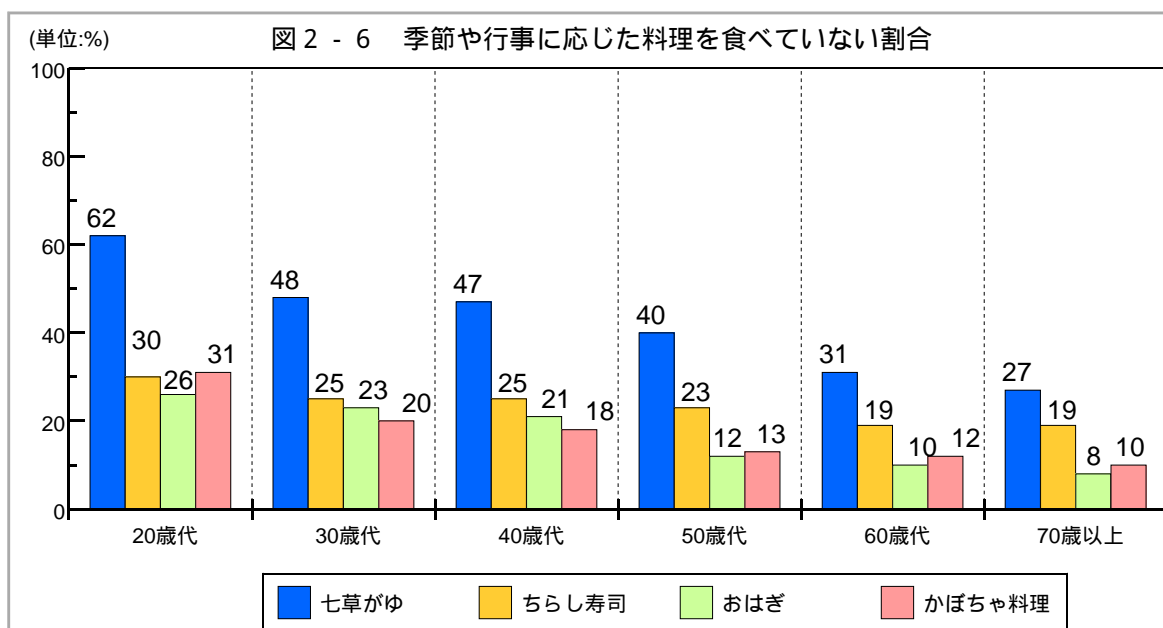
29. 季節や行事に応じた料理について

お正月のおせち料理、雑煮は、比較的良好に食べられている。

この1年間に、季節や行事に応じた料理を食べたか、おせち料理（正月）、雑煮（正月）、七草がゆ（正月）、ちらし寿司（桃の節句）、おはぎ（彼岸）、かぼちゃ料理（冬至）について聞いたところ、「食べた」（「自分、家族又は知人が作ったものを食べた」、「出来あいのものを購入して（一部購入も含む）食べた」）と回答した人の割合は、雑煮95%、おせち料理93%、おはぎ81%、かぼちゃ料理79%であった（図2-5）。



「食べた」と回答した人の割合がおせち料理、雑煮と比べて低かった七草がゆ、ちらし寿司、おはぎ、かぼちゃ料理について年代別に見てみると、年代が低いほど「食べていない」と回答した人の割合が高い傾向が見られた（図2-6）。



30 . お箸の持ち方について

「正しく使って食べていると思う」と答えた人の割合は80%

お箸を正しい持ち方で使っているか聞いたところ、「正しく使って食べていると思う」と回答した人の割合は80%、「正しく使って食べていないと思う」15%であった。

「正しく使って食べていると思う」と回答した人の割合が多かったのは60歳代、70歳代以上、少なかったのは20歳代～40歳代であった。

「自分のお箸の持ち方、使い方が正しいかどうか分からない」と回答した人の割合は、どの年代も一桁台と少なく、70歳以上は0%であった(図2-7)。

